

第4学年 図画工作科学習指導案

展開場所 理科室・図工室

1 題材名 まぼろしの丘に咲く まだだれも見たことがない花（絵画）

～絵画表現を通して～

2 題材について

社会生活の中で、自分が生活する家や学校の環境を彩り、より豊かに楽しく過ごしたいという願いをもつ人は多いだろう。「もしも、〇〇だったら」「こんな世界があったら」という視点をもって身近なものに目を向けてみることは、児童の想像力を高めることにつながり、考えたことを自分らしく表現することは、つくり出す喜びを味わうとともに造形的な感覚を豊かにし、生活を彩り、より楽しく生きることにつながると考える。

そこで本題材では、児童たちの想像力を高め、自分らしく表現する力を伸ばしていくために、自分だけのまぼろしの花を思い浮かべ、その花の感じに合う形や色を見付け、工夫して絵に表す活動に取り組む。本校の学校名「稲丘」に因み、題材名を「まぼろしの丘に咲く花」と設定した。校内の渡り廊下を「まぼろしの丘」とし、多彩な「まぼろしの花」を持ち寄って飾ることで、生活空間を楽しく彩ることのよさを実感させたい。

学習指導要領では、第3学年及び第4学年の目標として、(1)「対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して分かるとともに、手や体全体を十分に働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようになる。」(2)「造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方などについて考え、豊かに発想や構想をしたり、身近にある作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようになる。」(3)「進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくり出す喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。」とある。この目標を受けて、内容 A 表現(1)イ「絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けることや、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えること。」とある。ここでは、児童にとって身近である花を題材に、豊かに想像を広げていくことや、自分の思いに自信をもって表現していくことの楽しさを味わってほしい。多様な表現を集めることで、自分の作品のよさを感じたり、友達の作品とつながてみたり、花同士で会話をさせたりして想像の世界を深めていき、楽しく伸び伸びと活動してほしいと考える。

本題材の導入部では、活動を貫く「まぼろしの丘」の物語を学級で作成し、設定を共通のものとする。その後、個々で「まぼろしの花」の種を作成し、やがてその種がどのような花を咲かせるのかを想像していく。いつ、どこで、どのように咲くのかという項目を事前に設定し、花の形や色、大きさなど、自分らしい表現方法を探っていく。パターン化された花の形にとらわれないように、世界の珍しい形の花々の写真を見せたり、基底材の用紙の大きさや形、色を選択できるようにしたりして、意欲を高め、新たな表現を思いつくことを期待したい。

下がきをしないで直接絵の具でかくという活動は多くの児童にとって初めての経験である。楽しみながら試行錯誤することで、新しいアイデアが生まれる。作品の完成度を重視しすぎるのではなく、児童が自分の考えで表現を試したり、新しい表現に取り組んだりする過程を楽しむことが大切であると考え。水彩絵の具を中心としながら、他の描画材や既習の技法を用いたり、組み合わせたりすることで自分の表現を追求してほしい。

大きな紙を使ったり、多様な技法を取り入れたりする児童の活動が考えられるため、広い場が必要になることから、理科室（机上での活動）と図工室（床での活動）の2教室で展開する。また、テーマの設定が一人一人異なるため、個人の活動が中心となるが、友達と交流し、自他の想像や表現方法のよさを見付け、伝え合う時間も設けていくようにする。終末部では、自分の作品を中心に据えて、友達の花とも関わり合いながらそれぞれが「ま

ぼろしの丘」の物語を完結させる。互いに作品と物語を鑑賞し合い、想像の豊かさや表現方法の多様さを感じるとともに、自他を受け入れ認め合う心を養いたい。

本学級の児童は、図画工作科の学習に意欲的な児童が多い。決められたテーマや条件下での製作では、見通しをもってスムーズに取り組むことができる。しかし、テーマや範囲の設定が個人に委ねられる題材で表現するという経験は乏しい。想像を広げることを難しいと感じていたり、自分の表現に自信をもてなかったりする児童も少なくない。そこで、本題材に入る前に想像の楽しさや表現や思考の多様さを味わえるようにするために、「いなたん（本校のキャラクター）変身コンテスト」や「こんなものがあつたらいいな！学校生活便利グッズ発明大会」などを学級活動の中で取り入れたり、色や形から受ける感じ方を共有させたりする活動を通して、児童の豊かな想像のための一助となるようにしていきたい。

自信をもって表現した作品が、友達に認められたり、無造作だった渡り廊下を彩る役割を果たしたりする経験を通して、図画工作科の学習が生活の中で生かされていくことや、生活を彩ることの楽しさを味わい、さらに自己肯定感を高めることにも繋げていくようにしたい。

3 題材の目標

- (1) まぼろしの花の世界を表すときの感覚や行為を通して、形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどが分かり、表したいことに合わせて工夫して表す。【知識及び技能】
- (2) 形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを基に、自分のイメージをもちながら、まぼろしの花の世界を想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考える。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 進んでまぼろしの花の世界を想像して表す学習活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を想像しようとする。【学びに向かう力、人間性等】

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○まぼろしの花の世界を表すときの感覚や行為を通して、形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどが分かっている。 ○水彩絵の具を適切に扱うとともに、ローラーなどについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。	○形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを基に、自分のイメージをもちながら、まぼろしの花の世界を想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 ○形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	○つくりだす喜びを味わい、進んでまぼろしの花の世界を想像して表す学習活動に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画(7時間扱い)

時間	ねらい・学習活動	評価の観点、評価の方法等				備考	
		知	技	思	態		
		知識	技能	発想や構想	鑑賞		
1	○「まぼろし」の言葉のもつ意味やイメージを共有する。 ○題材を貫いていく「まぼろしの丘」の物語のはじめの部分を考える。 ○まぼろしの花の世界に浸り、想像を広げる。 いつ どこで どのように咲く ○「まぼろしの花」が咲く様子をイメージしながら、形・色・模様・感触等を考えて材料を選び、種をつくる。 紙粘土・小石・画用紙・クッション材等			◎ ワークシート		◎ 観察 対話 作品	・1時間目は、「思考・判断・表現（発想や構想）」と関連付けて「主体的に学習に取り組む態度」の視点で児童の学習状況を把握し、指導に生かす。
2	○「まぼろしの花」が咲く様子のアイデアをスケッチする。 ・前時に作成した種を見ながら想像を膨らませていく。 ・表したい感じに合う基底材を選ぶ。 ・種を基底材に貼る。	○ 観察 作品		◎ 観察 対話			・2時間目は「知識・技能」「思考・判断・表現（発想や構想）」の視点で児童の学習状況を把握し、記録に残す。
3 (本時)	○自分の表したい「まぼろしの花」のイメージに合うように、形や色の感じ、表し方を工夫して絵に表す。 ・水彩絵の具を基本としながら、他の描画材料と組み合わせてもよい。 ・表現の内容に合わせて、必要ならば基底材を広げてよい。 ○自分の表したいイメージを基に、試しながら工夫して表していく。 ○友達の作品のよさや表現の工夫を感じ取って伝え合う活動を通して、新たな発想や構想の手掛かり	◎ 観察 作品	◎ 観察 作品	◎ 対話 観察	○ ワーク シート		・3時間目は「知識・技能」と「思考・判断・表現」を関連付けて児童の様子や学習状況を把握し、指導に生かす。

	となるようにする。						
4	○前時の友達のアドバイスをもとに自分の「まぼろしの花」のイメージに合うように、形や色の感じ、表し方を工夫していく。 ○友達の作品のよさや表現の工夫に気づき伝え合うことで、自分の作品の表現の工夫に気づき、よさを味わう。	◎ 観察 作品	◎ 観察 作品	◎ 対話 観察			・4時間目は「知識・技能」と「思考・判断・表現」を関連付けて児童の様子や学習状況を把握し、指導に生かす。
5	○「まぼろしの丘（渡り廊下）」の好きなどころに作品を掲示し、友達と作品を鑑賞し合い、互いの発想や工夫、いろいろな表現について感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げる。 ○友達と関わり合い、作品を並べたり、新たな基底材を用いてつなげたりしていく。				◎ ワーク シート		・「思考・判断・表現（鑑賞）」の視点で児童の学習状況を把握し、記録に残す。 ・「思考・判断・表現（鑑賞）」と関連付けて「主体的に学習に取り組む態度」の視点で、作品を鑑賞している様子を観察する。
6	○自分の「まぼろしの丘」の物語を完結させる。 ○想像の世界の楽しさを味わう。互いの発想や工夫、表現の面白さを味わう。				○ 観察		・「思考・判断・表現（鑑賞）」と関連付けて「主体的に学習に取り組む態度」の視点で、物語を創作したり作品を鑑賞したりしている様子を観察する。 ・「主体的に学習に取り組む態度」は、活動全体を通して把握し、最後に記録に残す。

6 材料と用具

材料	用具
基底材（4つ切り画用紙・長方形・正方形・円形・色画用紙） 水彩絵の具 カラーペン 共同絵の具 クレヨン 色鉛筆	たんぼ ローラー はけ 金網 はぶらし のり はさみ 養生テープ スポンジ マスキ ングテープ ストロウ ビーズ スタンプの型 綿棒 両面テープ ホチキス

7 本時の指導

(1) 目標

○想像した花の感じに合う色や形を捉え、表したいことに合わせて、表し方を工夫して表すことができる。

(知識・技能)

○自分が表したいイメージをもち、色や形、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えることができる。

(思考・判断・表現)

(2) 展開(3/6)

学習活動と内容(・)	教師の支援(○) 及び評価(◆)	資料 材料・用具
1 題材の設定を確認し、本時の内容をつかむ。 - まぼろしの丘には、だれも見ただことのない花が咲くんだ。 - 自分の想像したイメージを、色や形、その組合わせて表現しよう。	○皆で考えた物語のはじめの部分を想起させ、「まぼろしの丘」の世界に入り込めるように声かけをする。 ○かき足したり、紙を広げたりすることを肯定的に取り上げ、伝える。	- 表現方法の例 - アイデアスケッチ - 色相環
形や色を工夫して、まぼろしの花をさかせよう。		
2 想像した花の感じに合うように、形や色、表し方を工夫して表す。 100年に一度しか咲かない花は、きっとすごいエネルギーを秘めているはず。つぼみは破裂しそうなくらいパンパンになっていると思うんだ。 - ぐんぐん伸び続けるツルがあるから、紙を付け足そうかな。 - 優しい気持ちになる花だから、やわらかさを感じるような色にしたいけど…。 - 赤の上に重ねるとき、はっきり目立つ色は何色だろう。	○材料や用具を紹介し、活動への意欲を高める。 ○児童のつぶやきやひらめきなどを拾い上げ、かきながら思いついたことも、かき加えていくことを提案する。 ・パンパンな実は、どんな大きさかな。手で大きさを表してみよう。 ○迷いが生じている児童には、自分がイメージした花の設定に戻ったり、技法や色を試しながら考えたりするように助言する。 ・色相環を見てみよう。イメージに近い色や、赤の反対になるのはどの色かな。 ○対話をする中で自分が表現したいイメージを確認できるようにする。 ○絵の具が乾いたら、上からクレヨンや色鉛筆でかき加えたり、他の紙にかいたものを上から貼り重ねたりしてもよいことを伝え、表現の方法を追求していくように促す。 ◆想像した花の感じに合う色や形を捉え、表したいことに合わせて、表し方を工夫して表している。 (知識・技能)	- 基底材 - 綿棒 - ローラー - 金網 - 歯ブラシ - ストロー - ビー玉 - 水彩絵の具 - 水性カラーペン - 両面テープ - ホチキス



力強さを太い線で表現しよう。

優しさを形で表そう



3 友達の作品のよさや表現の工夫、自分の作品についての困りごとなどを伝え合う。 ・黒い紙に、白い絵の具を濃くしてかくと、とても力強くてかっこいいです。 ・角のない丸い花びらが、この花のやさしさを表しています。甘いにおりがしてきそうです。 ・にぎやかな感じにしたいけど、このあとどうすればいいか迷っています。 4 活動を振り返り、次時の活動の見通しを立てる。 ・スパッタリングを使って花粉を飛ばしたいな。 ・みんなの花を集めて、丘に花を咲かせるのが楽しみだな。	◆自分が表したいイメージをもち、色や形、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。(思考・判断・表現) ○友達の作品を相互鑑賞し合ってよさを伝え合う。色のよさ、形のよさ、その組み合わせによるよさという3つの鑑賞の視点を伝える。 ○友達の作品や困りごとについてアドバイスができるように、考えさせる。 ・〇〇さんの「にぎやかにしたい」という思いは、どうやったら表現できそうかな。 ・効果的に使えそうな技法はあるかな。 ○次時からの活動に期待や意欲をもてるようにする。	
--	---	--

9 主な引用／参考文献等

- ・国立教育政策研究 教育課程研究センター「『指導と評価の一体化』にための学習評価に関する参考資料【小学校 図画工作】」(東洋館出版社) 令和2年8月
- ・日本文教出版株式会社「これで解決!図工の授業」

4年 組 名前

まぼろしの花をさかせよう。

まぼろしの意味を共通理解する

ストーリー お話のはじまり

物語のはじめの部分を、クラス皆でつくる。

どんな種から
どんな花を咲くのだろう・・・



自分のまぼろしの花を考えてみよう。

花の名前

いつ 咲く	
どこで 咲く	
どのように 咲く	

スケッチ（イメージを広げてみよう）

ついに咲いた！
クラスみんなのまぼろしの花！

友達が咲かせた花を見てみよう。

友達の作品を見るポイント⇒花の色・形 組み合わせ 絵の具の使い方 花のせってい 想像力 背景
種 紙の色や形 ふんい気 並べ方 など

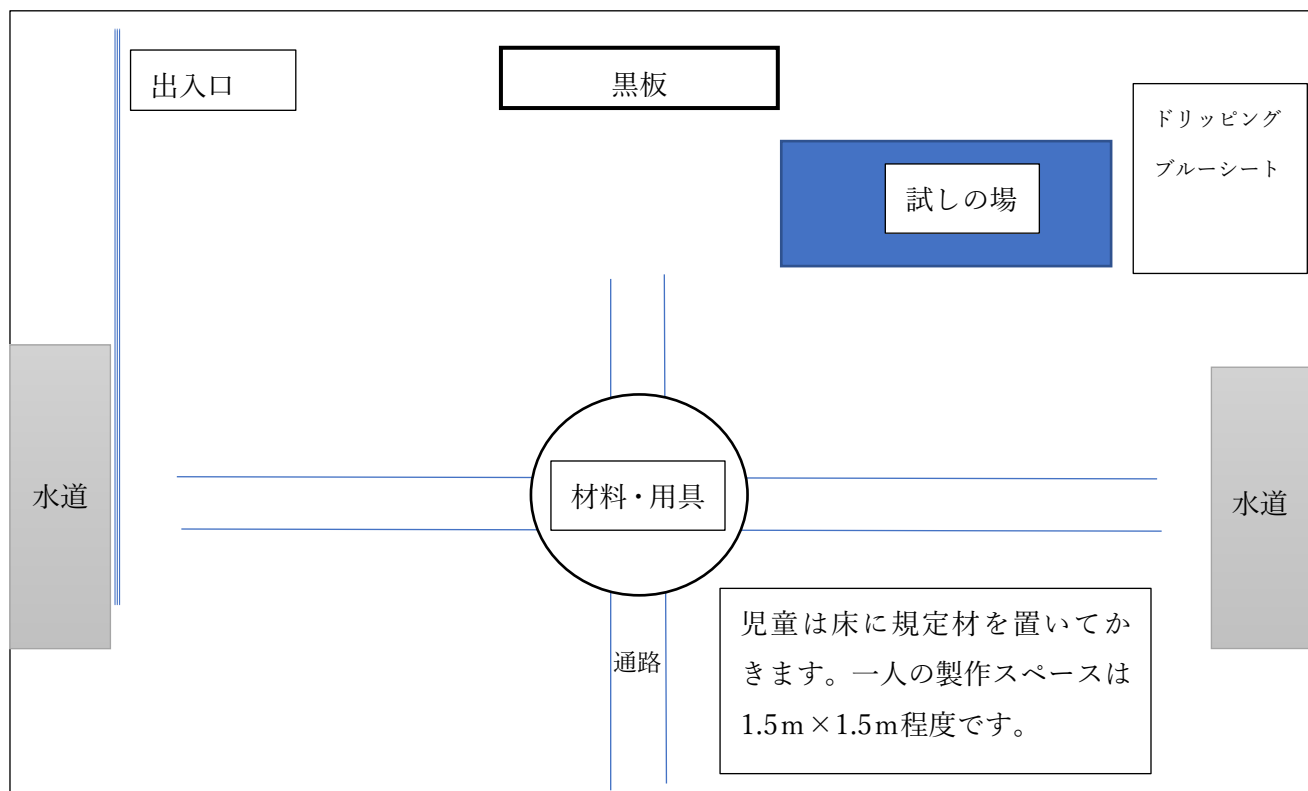
さん	いいところ
さん	いいところ
さん	いいところ
さん	いいところ
さん	いいところ

ストーリー お話の終わり

お話の終わりは、友達の作品を鑑賞した後に一人一人が
考える。

.....
.....
.....
.....

【場の設定①】 図工室・・・机を使わないで床に用紙を広げてかく場 15人程度



図工室と理科室は近接しています

【場の設定②】 理科室・・・机の上でかく場 15~20人程度

